

名戸ヶ谷ビオトープだより

第 65 号 2016 年春号

<http://nadogaya-biotope.org/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行

発行責任者：篠崎 将 Tel/Fax 04-7173-6353

ニホンアカガエルの卵塊調査

昨年と同時期にニホンアカガエルの卵塊調査を開始し 3 月 20 日まで 5 回実施しました。今回は児童たちの参加を期待して毎回日曜日としたが全くゼロでした。調査内容は下記の通りで、卵塊のピークは 2/21 に過去最大でした。2/28 は三角池とザリガニ釣り場で多く確認され、その後も続いていました。

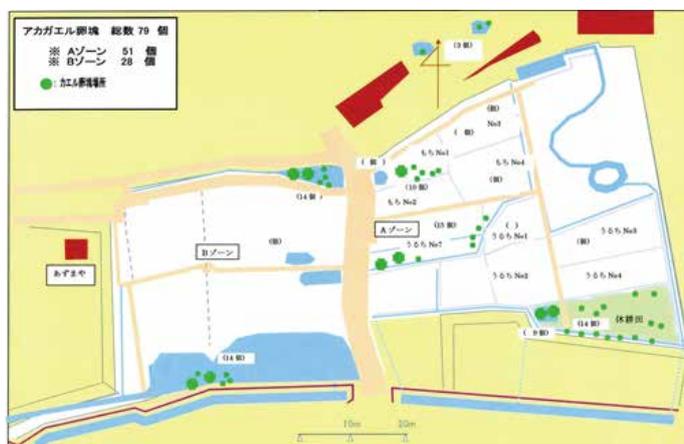
もち田 No3 はカルガモの餌場となり殆ど確

認できませんでした。3/6 には卵塊が崩れて孵化が始まり、それ以降は急激に減少しました。3/13 にはアズマヒキガエルのヒモ状の卵塊をもち田 No1 の隣池に確認しています。昨年より 1 週間早まりました。小屋横の池に産み付けられた卵塊からオタマジャクシが元気に泳いでいました。無事に育てて欲しいものです。

(藤平 三郎)

(A: A ゾーン・ B: B ゾーン)

月 日	卵塊数	天気等	特 記
3月20日(日)	11 (A: 6 B: 5)	曇り、気温 12 度	B ゾーン三角池及び他アズマヒキガエル卵塊
3月13日(日)	9 (A: 5 B: 4)	曇り、気温 8 度	ヒキガエル卵塊確認 もち田 No1 隣の池
3月6日(日)	48 (A: 7 B: 41)	曇り、気温 16 度	三角池 17 個、ザリガニ釣り場西側 24 個
2月28日(日)	73 (A: 29 B: 44)	晴れ、気温 12 度	三角池 18 個、ザリガニ釣り場西側 26 個
2月21日(日)	79 (A: 51 B: 28)	曇り、気温 12 度	うるち田 No7 15 個、ザリガニ釣り場 14 個



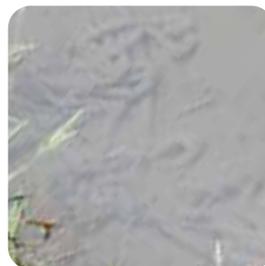
2月21日ニホンアカガエル卵塊調査



ニホンアカガエル



孵化後のオタマジャクシ



アズマヒキガエルの卵塊



アズマヒキガエル

ヘイケボタル幼虫の放流

4月2日(土)、花曇りの肌寒い日となりました。松清さんが、昨年から飼育した幼虫約167匹を放流しました。幹事の皆さんが見守りつつ又田んぼから餌となるサカマキガイをとって放流地へ一緒にまきました。

放流場所については湧水が大幅にへりましたので、北側土手のU字溝水路との意見もありましたが、松清さんによりますとコンクリートでは幼虫が這い上がれず土手まで行けないとのことで従来場所に放流しました。

何とか無事に育って、ホタルの飛翔を期待したいと思います。(昨年212匹放流、5匹発光確認)
(藤平 三郎)



ヘイケボタルの幼虫



放流

皐月晴れの中での田植え

4月16日と23日に稲株踏みと元肥(ネット購入のバイオ有機肥料)散布作業を行いました。連休の子供の日(5日)に藤心ライスセンターより苗を持ち込み、田んぼの草取り、均し板での均し作業と準備を進めました。今年ももち苗は宮城県古川産の「ミヤコガネ」うるち苗は柏産の「コシヒカリ」です。
(小笠原 智)



稲株踏み作業も深く大変です



計量した元肥の散布作業

今年も体験者が参加してくれました

7日はちょっと風が強かったですが好天に恵まれ、大勢の会員と都内の親子が参加、又8日は皐月晴れの中で名戸小の先生親子や松戸の夫妻も体験参加してくれました。参加した方が入会もしてくれました。早朝にオサで線引き、水調整して準備した甲斐がありました。

休憩時には、会長からのイチゴや影山さんからのお茶のてんぷらなど美味しい差し入れもあり、話が弾みました。ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。2週間後の21日からカモが踏みつけた苗の植え直しをしています。これからはコナギ等雑草との戦いですので、また協力をお願いします。

(小笠原 智)



親子で一生懸命植えています



なかなか足が抜けません



お母さんが頑張っています



お父さん、見ていられずこの後植え始めました



作業後のお茶は美味しいです



湧水池で新しい仲間「ドンコ」を発見しました



皐月晴れの下で話が弾みました

春の生きもの観察会

5月21日(土) 9:30～11:00

晴れ 気温 24℃

初夏の陽気で爽やかな日となり、春の生きもの観察会を行いました。名戸ヶ谷小へのポスター持参や、ちいき新聞の掲載等から多くの皆さんが参加され近年まれにみる44名と大盛況で父兄17名、児童27名でした。説明のあと、早速網を持ちスタートしましたが、網が足りなくなる程でした。ザリガニ、カダヤシ、オタマジャクシ、チョウ、トンボなどをワイワイ言いながら追い求めてA、Bゾーンを駆けまわっていました。最後に篠崎会長から捕獲したそれぞれの生きものについて詳しい説明をし、又質問などを受けました。終わってから植物の関心ある方に、山村さんがBゾーンを案内説明しました。当日は会員活動日で、会員の皆様にも見守りをしてもらい無事に終わることが出来ました。子供たちにとって自然とふれあい、短い時間でしたが楽しいひと時であったと思います。尚、父兄には名戸ヶ谷ビオトープの冊子を渡しPRをしました。次回は秋です。(藤平三郎)



わーい ザリガニだ!



捕まえるぞ



昆虫類の説明です



捕まえた生きもの説明です

合同作業日の活動状況

3月19日(土)

3月の活動日には8名の会員が参加され、田植えに備えて畦の水路作業を行いました。圃場の水の管理には欠かせない重要な作業の一つです。ホタル生息場所の水路整備も実施しました。主な水路の整備後の状況をお知らせします。



4月16日、23日(土)

4月活動日は2週に亘り活動しました、1週目に16名、2週目には8名の会員が参加され、圃場の株踏みこみ作業を実施しました。また、肥料の散布作業も行いました。



カブ踏み風景



カブ踏み後の風景



肥料散布風景

5月21日(土)

気温上昇と共に、草木の成長は著しくなり、葦やヒメガマなどは刈り取りの対象になります。5月の作業はAゾーンBゾーンの葦、ヒメガマの刈り取り作業を行いました。会員の参加は12名でした。この日、生き物観察会も同時に開催され大勢の児童や父兄たちで賑やかにおこなわれ、ザリガニ釣り場は盛況でした。

(園田廣満)



Aゾーンの刈り取り後



Bゾーンの刈り取り後



ザリガニ釣り場の風景

環境政策課の森山博文です

皆様,はじめまして。今年度より柏市環境政策課において名戸ヶ谷ビオトープの担当をすることとなりました森山と申します。

名戸ヶ谷ビオトープは,市内でも住宅地に囲まれた形で残された自然が残されている貴重な土地です。と,いうようには書いていますが,正直なところ,私自身これまで自然に触れ合ったりということもほとんどなく,ビオトープという言葉も初めて聞くようなところであり,会員の皆様のほうがはるかに詳しいことと存じます。

さて,そのような状態ではありますが,今後,名戸ヶ谷ビオトープをどのように保全していくのかというのは,なかなか難しい課題であると感じています。

課題の一つとして挙げたいのは,若年層の自然への興味をどのようにして引き付けるかというものです。

現代の若い世代は,昭和期と比較して身近に自然があるという環境は圧倒的に少なくなっています。これは,子供達にとっての原風景が今の状態であり,自然に積極的に向き合うような家庭に育つことがなければ,自発的に興味が向く機会に辿り着かないということに繋がります。

だからこそ,名戸ヶ谷ビオトープで自然と触れ合う体験をすることで,その場所を原風景として少しでも心に留め,保全活動への興味に繋げていくことが,今後の名戸ヶ谷ビオトープの活動の継続にも寄与していくのではないかと思います。

ということで,長々と認めましたが,今年度は名戸ヶ谷小学校の総合学習への再開に向け取り組んでいこうと考えています。非常に意義のあることであると考えていますので,まずは,学校の先生方,保護者の方々に賛同いただけるよう努力して参ります。

それでは,1年間よろしく願いいたします。

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏駅東口より東武バス（5番乗り場）「名戸ヶ谷行き」「新柏行き」で「名戸ヶ谷病院前」下車
面積：約 4,400 m² 湿性生物：57 種 生きもの：161 種（内、千葉県指定保護生物 26 種）

（2013 年、年間を通じて観察した生きものの種類）